

大般若と長篠一文字

歩荷

◆国宝が百十一口くち

我が国の約二百八十万口の刀剣のうち国宝指定は百十一口である。ほかに重文約六百六十口、重要約千口がある。

◆思いもよらぬ恩賞

さて戦国時代の話であるが一つの合戦で現・国宝の太刀二振りを戦功の恩賞として手に入れた男がいる。

今日で言うなら地方の中小企業の課長か係長クラスが勤め先の社長ばかりか系列大企業のトップからも激賞され思いもよらぬほどのボーナスを手にしたようなものである。

◆長篠城を死守



その男、名を奥平信昌(初名貞昌)といひ三河の国設楽郡を所領した若き地方豪族である。天正三年二月〜五月武田勝頼は二万余の大軍で長篠城を包囲攻撃

したが、信昌は五百の手勢とともに籠城。浜松の主君家康への使者鳥居強右衛門勝商(とりいすねえもんかつあき)の命を賭した救援要請によりこれを死守した。

◆長篠・設楽ヶ原の戦い

五月に入り救援した織田信長、徳川家康連合軍と武田勝頼軍との設楽ヶ原における激突は連合軍の大勝利となったが、若し長篠城が武田方に落ちていたならば歴史はまた違ったものになったであろう。

◆家康からも信長からも

家康は信昌の戦功を賞し「元足利將軍家重代の太刀「大般若長光」を与えている。更に信長から家康の家臣である貞昌の武功を賞して「信」の一字を与え信昌と名乗らせたばかりか福岡一文字在銘の太刀を贈っている。この太刀はのち「長篠一文字」と呼ばれ信昌の愛刀として有名である。主君の家康から大般若を信長から一



文字を賞与されたが、これによっても長篠籠城の意義が如何に大きなものであったかがわかる。さらに彼はその時の功で家康の長女亀姫を嫁にもらっている。



数年前、設楽町の郷土史家Kさんに武田勝頼敗走の険しい山道を案内して頂き往時を偲んだ。遠くない日、長篠城攻防戦そして赤備の武田騎馬隊が突撃を繰りかえした「戦の庭」に立つてみたいと思うこの頃である。 参照 佐藤寒山著「日本名刀100選」

*赤備(あかぞなえ、赤備えとも書く)

「甲冑」などの武具を、同じ色で統一した部隊を「備え」と呼ぶ。なかでも「赤備」とは、武具を赤色や朱色を主体とした色彩で整えた精鋭部隊のこと。

豆知識

◆大般若長光

備前国(岡山県)の刀工

長光によって作られた太刀。

「大般若長光」の名前の由来は、室町時代の値打ち銭六百貫と大般若経六百巻をかけたもの。

持ち主の変遷

第13代將軍足利義輝→三好長慶→織田信長→徳川家康→奥平信昌→松平忠明→伊東巳代治伯爵→現在は東京国立博物館に所蔵されている。

◆長篠一文字

一文字とは日本刀刀工の一派。

通常「一文字」と呼ぶ場合、福岡一文字か吉岡一文字を指し、国宝に指定されているものが多い。

持ち主の変遷

織田信長→奥平貞昌→松平家→西郷隆盛→山縣有明→個人蔵

◆徳川美術館

日本刀の所蔵数では、刀・やり・なぎなた・小刀など約1,000振りが収蔵され、その数は国内最大級。特に有名なのが「物吉貞宗」(ものよしさだむね)と「鯰尾藤四郎」(なまずおとうしろう)。これらは「刀剣乱舞」で擬人化され若い世代にも知られている刀。

◆刀剣女子

2015年に配信が開始されたゲーム「刀剣乱舞」は、実在の名刀を擬人化した「刀剣男子」という複数のキャラクターがいる。このゲームをきっかけに名刀に興味を持ち、博物館や美術館、神社などに出かける女子が増えて、こう呼ばれるようになった。